

緩和ケアの取り組みについて

緩和ケア内科 小田 浩之

がん対策基本法が制定され今年で丸10年を迎えます。同法ではがん医療の均霽(きんてん)化の一環として緩和ケアの普及が位置づけられ、当院でも次のような取り組みを行っています。

緩和ケアチーム

当院では平成16年に緩和ケアチームを立ち上げ、以来がん患者さんの全人的苦痛の緩和に努めてきました。年々チーム介入患者さんは増加し、平成26年度は年間介入患者さんが219名にのびりました。緩和ケア内科のほか精神科、薬剤部、リハビリテーション科、栄養科、歯科口腔外科、地域連携課退院調整担当係、ボランティアなどのスタッフが連携し、学際的な対応を行っています。



緩和ケアチーム



患者さんと



緩和ケア病床の様子

緩和ケア内科外来

火、水、金曜日の午前中に緩和ケア内科外来を開設しています。当院通院患者の治療が中心ですが、地域連携医療機関に通院中の患者さんであってもご紹介があれば対応しています。

緩和ケア病床

院内がん終末期患者さんを対象とした病床を6床設置し、転院困難な患者さんの療養を行っています。病床数が限られるため院外患者の受け入れは行っていませんが、たとえば当院には一時的な短期入院を前提とした開放病床制度などもあります。

緩和ケア研修会

厚生労働省健康局長通達に基づく緩和ケア研修会(PEACEプロジェクト)を毎年開催し、院内外のがん診療医の資質向上を図っています。今年も11月に開催を予定していますので、地域連携医療機関の医師でまだ受講されていない方は是非ご参加ください。

その他の講演会・学習会

このほか、不定期ですが地域連携医療機関の皆様への緩和ケア最新情報の発信、情報交流の場を設けています。昨年は3月に「緩和ケア地域連携と薬物治療」と題したレクチャー・意見交換会、10月にはプライマリーケア連合学会理事鈴木央先生をお招きし「何が在宅看取りを可能にするのか?」と題した講演会を開催しました。今年も適宜開催を予定していますので、ご興味のある方はご連絡ください。

地域連携センター 徳田 英幸

療用麻薬の副作用と対策の説明を行うことなどに主眼をおいたグループワークが行われました。参加者は役割を真剣に演じることで、お互いの心境を理解することができ、ワーキング終了後には活発な意見交換が行われました。

2日目には小グループによるコミュニケーションロールプレイが行われ、がん医療において悪い知らせを伝える際のコミュニケーションスキルの知識を得る機会となりました。また、典型的ながん症例や、療養場所の選択に関する意思決定支援に関する事例検討などが行われました。

研修会レポート 緩和ケア研修会

去る10月31日・11月1日の2日間、地域がん診療連携拠点病院として当院主催の厚生労働省が定めた「がん診療に携わる医師に対する緩和ケア研修会の開催指針」に準拠した緩和ケア研修会を実施しました。8回目の開催となった今回の研修会には医師34名(院内医師28名、院外医師6名)が参加し、講義のほかグループワークといったプログラムに取り組みました。

1日目には講義のほか、医療用麻薬処方時に患者さんへ説明するシナリオを基に、参加者が患者等の役割を演じ、医

平成27年イベントを振り返って

ボランティアコーディネーター 向井 和恵

20周年を迎えたやさしさ・ジェントル

まず現在のボランティア数は約140名。例年より今は数が増えている様です。この他に体験ボランティア、協力ボランティアとあわせ、400名の皆さんとやさしさ・ジェントルの活動をしています。

今年は特に設立20周年の節目の年、昨年からいろいろ準備をして行事にとりくんできました。

まず2月のスノーフェスティバル、今年は初めて点灯式を院内で行い、聖歌隊の歌声の中、灯りが灯されました。6月はジェントルフェスティバル、バザー、展示、体験コーナー、コンサート、といつもの年より盛大に開催されました。9月にはスーデー・神崎和代先生を講師に招いて、講演会、祝賀会を開催しました。病院からもたくさん出席していただきました。12月にはクリスマス会などありますが、1年を通して患者さんの為には何がベストか常に学習しています。



6月ジェントルフェスティバル



2月スノーフェスティバル



9月20周年記念講演会



院長から修了証の交付

2日間全てのプログラムに参加しなければ修了と認められない非常にタイトな研修ですが、がん医療に携わる医療関係者の方々には今後是非受講していただきたいと思います。



コミュニケーションロールプレイの様子